

平成26年度 関東ブロッククラブネットワークアクション2014

開催報告

日時： [1日目] 平成26年11月15日（土）13:00～17:00
 [2日目] 平成26年11月16日（日） 9:00～12:45

会場： 茨城県水戸生涯学習センター（茨城県水戸市）

内容： テーマ 総合型クラブの本質を考える＜地域と共に、目指せ元気なクラブへ＞

[1日目]

- 開会行事
- 講演＜総合型クラブと地域コミュニティ＞ 「我がまちの総合型クラブとなるために」
 講師：長谷川幸介氏（茨城大学社会連携センター専任教員）
- グループディスカッション 「地域との連携について」

[2日目]

- 事例発表＜クラブの理想形を求めて＞
 - (1) 「茨城県協議会の取り組み」
 発表者 古徳洋一氏（茨城県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 幹事）
 - (2) 「13年間の歩みとこれからの課題」
 発表者 小野忠志氏（かしまスポーツクラブ理事長）
 - (3) 「地域に希望を・子どもに夢のあるゲンキなクラブづくり！」
 発表者 横田信次郎氏（取手東部わいわいスポーツクラブクラブマネジャー）
- グループディスカッション 「クラブの理想形について」 対象：創設済みクラブ
- 相談コーナー 対象：創設準備中団体
- 日本体育協会からの情報提供
- 閉会行事

【概要】

基本的なプログラム内容は昨年度の栃木県で実施された内容を踏まえ、参加者全員を対象とした講演・事例発表を通して課題提起を行ない、その後グループに分かれて、課題提供に対する意見交換や情報交換を実施し、最後に取りまとめ、発表を行うこととしました。

テーマは、総合型地域スポーツクラブが抱えている自立した自主運営を目指すために、今なすべきことは何であるかという原点を振り返る意味で～総合型クラブの本質を考える＜地域と共に、目指せ元気なクラブへ＞～としました。

課題提起として1日目は、地域住民の自治会活動・子ども会活動を自ら先頭に立ち実践されている長谷川幸介先生による生涯学習についての講演を、2日目は、茨城県内の実際の活動事例3件の発表を行

い、講演・事例発表をもとに両日とも、グループディスカッションを行い、元気なクラブづくりへの議論を深めました。

【1日目】

【講演】テーマ：総合型クラブと地域コミュニティ 「我がまちの総合型クラブとなるために」

長谷川幸介先生は、茨城大学社会連携センターに専任教員として在籍され、自ら地域の先頭に立ち、地域社会学を研究分野とし、生涯学習としての「まちづくり」で、全国を飛び廻っています。

講演は総合型地域スポーツクラブの意義と必要性が経験に裏打ちされた内容であり、その切り口が大変ユニークでユーモアに溢れていました。

総合型地域スポーツクラブが、学校・地域・家庭の三つをつなげることで、総合型地域スポーツクラブに入会したことで「幸せ」と感じることができる、すなわち「最大の幸せ装置」であり、「4つの縁」、血縁・地縁・職縁・友縁が薄れている現在の無縁社会から、この縁がつながっていることを基盤としているのが、総合型地域スポーツクラブであり、活動の意義は大きいと話されました。



【グループディスカッション「地域との連携について」】

参加者全員を10名前後のグループに分け、ディスカッションテーマを、直前の講演テーマと関連付け「地域との連携について」とし、班毎にディスカッションを実施しました。ディスカッション終了後、それぞれのグループで出た意見を発表しました。



「各グループ発表内容」

* 各種団体と連携し、その団体が持つ専門的な技術を生かした協働事業の拡大を図る。

(例 社会福祉協議会:転倒防止教室 病院の医師:脳トレ体操 自治会:イベント

PTA:英語教室

行政:施設運営

大学:各種教室 等)

* 各種団体との連携を深めるには、子ども会イベントに参加したり、近隣の名の知れたプロチームとの協働事業の実施や、クラブが中学校の体験学習に生徒を受入れしながら、クラブの認知度向上を図っていく。

- *行政との関わりが深い、スポーツ少年団、体育協会、PTA、スポーツ推進委員の方々と、常日頃から情報交換を積極的に行い、クラブの運営に対する支援を求める。
- *行政の支援をいただく基本的な心構えとして、自クラブができることをアピールしたり、地域とタイアップしながら、事業を実施したことに対する行政側の理解を得る努力をする。
総合型クラブの原動力は、地域の元気があるクラブが行政との協働で動くという認識でクラブ運営を推進する。
- *総合型クラブの活動成果を定量的に把握する方法を検討し、その結果を各方面にアピールする。

[2 日目]

【事例発表】 テーマ：「クラブの理想形を求めて」

茨城県内の総合型地域スポーツクラブの取り組み状況について3件の事例を発表しました。この事例は、全体テーマである総合型地域スポーツクラブの本質を今後考え直し、元気あふれる地域づくりの核となるべきクラブの理想形の追求を課題提供としました。事例-1「茨城県協議会の取り組み」を茨城県協議会幹事の古徳氏（写真左）に、事例-2「13年間の歩みとこれからの課題」を、かしまスポーツクラブ理事長の小野氏（写真中）に、事例-3「地域に希望を・子どもに夢のある元気なクラブづくり！」を取手東部わいわいスポーツクラブ・クラブマネージャー横田氏（写真右）が発表した。



【グループディスカッション「クラブの理想形について」】

創設準備中団体の参加者のみを対象とした相談コーナーと、創設済みクラブの参加者を対象としたグループディスカッションを実施しました。ディスカッション終了後、それぞれのグループで出した意見を発表しました



「各グループ発表内容」

- * 自主財源確保のための工夫が必要であるとの論議が多く、事業化されたクラブもある。NPO 化資格取得、指定管理者受託、行政の施設管理業務の委託等の事業化を推進していく。
- * 指導者や事務・経理スタッフの人材確保、育成に注力して行かねばならない。専門屋さんを公募し、その人材をクラブで雇用できるよう、財源確保に向けた会員増に結び付く「自治会との協働による出前教室」、「子ども対象のヒップアップ教室」、「学校用務の委託」、「放課後の子ども教室等の魅力的事業」の展開を更に進めて行く必要がある。
- * 会員交流の場、新住民と旧住民とのコミュニケーションの場、サロンのような雰囲気を持った、気楽に立ち寄れる場としてのクラブハウスを自費で作りたいという声が出た。学校の倉庫をリニューアルしたり、廃校を利用する意見が出た。
- * 創設支援グループでは、総合型クラブの勉強会を、設立準備委員会や市民説明会で1回/月程度の頻度で開催しており、やっと総合型クラブについての理解が浸透してきている。今後は、理念を共有しあいながら、研修、勉強を重ねて行くが、まずは総合型クラブの考え方、基本的な方針を委員内で浸透させる事が、最も重要との認識を持ちクラブ運営を推進していく。

【まとめ】

今回のクラブネットワークアクションの2日間を通しての全体テーマを「総合型クラブの本質を考える」と実行委員会に提案し、サブテーマとして「地域と共に、目指せ元気なクラブへ」を併記することで決定しました。

ここ数年、クラブの自立化が強く叫ばれてはいるものの、その半面、「助成金ありき」のクラブ運営ではと思われても仕方がない雰囲気を感じています。

自立した運営を推進していく上で最も重要なことは、クラブの存在価値である理念を共有し、その理念を実現するために総合型地域スポーツクラブの基本方針である受益者負担による自主運営ができる事業計画、運営体制の確立を図っていかねばならないと思っています。しかしながら、助成金頼りで立ち上げ、5年後打ち切られた時点で運営が行き詰ってしまう状況になるのではと危惧しているクラブが多いのが現実かと思えます。

今回のテーマは、この様な状況の折だからこそこのテーマです。

このテーマに沿った講演・事例発表、グループディスカッションを行ない、浮き彫りになってきた課題、自分のクラブをどのようなものにしたいか（理念）や、この実現に向けた事業内容、地域における各種関係団体との連携を図りながらの運営方法等に関して前向きなディスカッションができ、今後のクラブの自立化に向けた一つの転換がなされたのではないかと考えています。

関東ブロッククラブネットワークアクション 2014

実行委員長 桑田 健秀